

# 災害時に起こること（導入編）

# 災害時に起こること

## 災害種別死者・行方不明者

災害種別	死者・行方不明者 (平成5年～令和3年)
風水害	2,144人
地震・津波	29,417人
火山	69人
雪害	1,563人
その他	120人
合計	33,313人

平成5年から  
令和3年の間に、  
災害により3万人  
以上が死亡

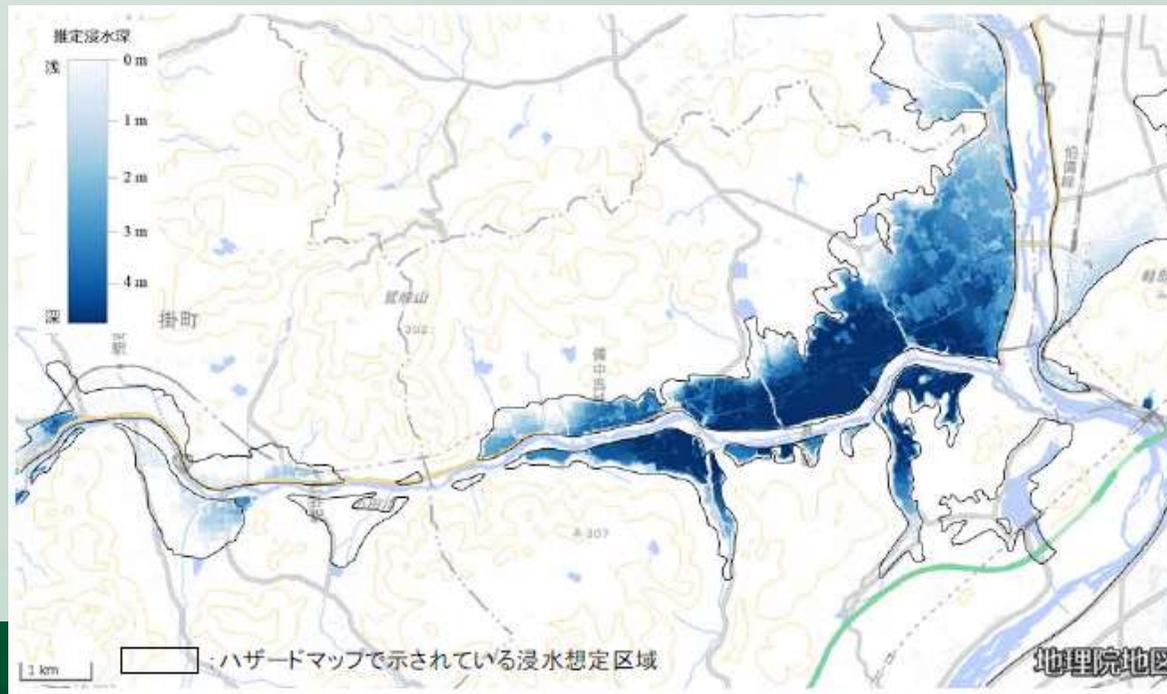


大きな被害の背景で、災害時に何が起こるのかご存じですか？  
⇒災害時に被害に遭わない、被害を軽減するためには、災害時に何が起こるのか、被害を受けるポイントを把握することが必要です。

# 災害リスク確認の重要性



平成30年7月豪雨時、岡山県倉敷市真備町では、事前に想定された浸水区域と実際の浸水範囲がほぼ重なっていたにもかかわらず、44の方が自宅で亡くなりました。災害時に被害に遭わない、被害を軽減するためには、事前に災害リスクを確認することも重要です。



名古屋市消防局【公式】  
@NagoyaShobo

フォローする

岡山県へ派遣中の緊急消防援助隊愛知県隊は、倉敷市真備町で救助活動を開始します。不安な気持ちでいっぱいだと思いますが、遅くなりましたが救助はすぐ側まで来ています。必ずあなたを助けます。

#名古屋市消防局 #緊急消防援助隊 #愛知県隊



# 発災時に起こることを具体的にイメージする



ハザードマップ等で災害リスクを確認する際、発災時に起こることや、被害を受けるポイントを把握していると、災害時のイメージがより具体的にになります。

Q1 震度6強の地震の揺れではどのような被害が発生するのか？

⇒地震編スライド9枚目

Q2 液状化が発生すると、どのような現象が発生するのか？

⇒地震編スライド35枚目～

Q3 浸水深1mの津波に巻き込まれた場合の死亡率は？

⇒地震編スライド33枚目

Q4 洪水・内水氾濫による3mの浸水は建物の何階付近か？

⇒風水害編スライド20枚目

# 本資料の目的

- 1 災害時に起こること、被害を受けるポイントを知る
- 2 災害リスクを確認する



災害時のイメージをより具体的に持つ

# 資料の構成



資料の構成は3部構成です。  
災害は、この地域で発生する可能性の高い、地震と風水害を取り上げます。

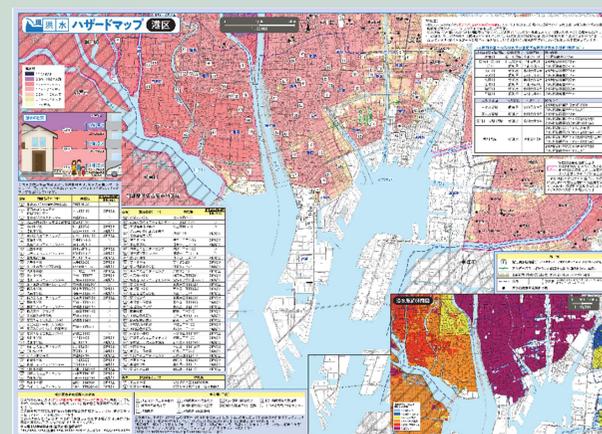
	区 分	概 要
1	導入編 (本資料)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 導入</li><li>・ 災害リスクの確認方法</li></ul>
2	地震編	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地震時に起こること、被害を受けるポイント</li><li>・ 地震時の地域の災害リスクの確認</li></ul>
3	風水害編	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 風水害時に起こること、被害を受けるポイント</li><li>・ 風水害時の地域の災害リスクの確認</li></ul>

# 災害リスクの確認方法



## なごやハザードマップ 防災ガイドブック

想定し得る最大規模の洪水、内水氾濫、高潮に加え、地震、津波、ため池氾濫などすべての災害を掲載したハザードマップや防災情報、日ごろからの備えなどをまとめたもの

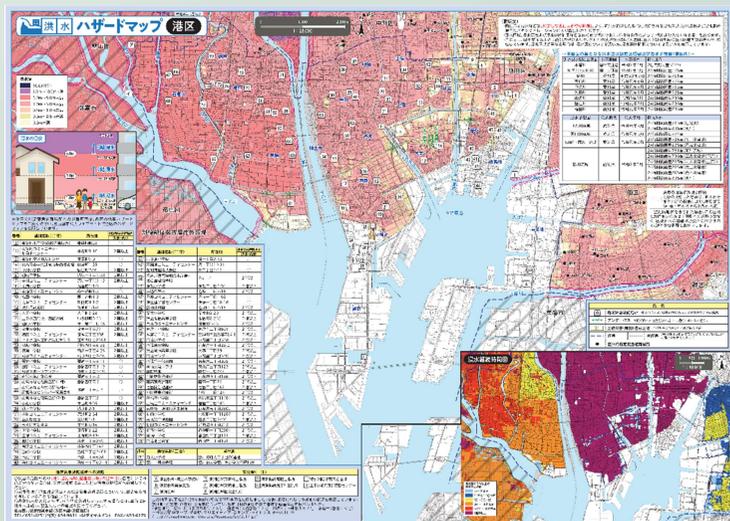


(参考) 洪水ハザードマップ



災害リスクを確認するツールの一つにハザードマップがあります。ハザードマップは、自然災害による被害を予測し、その被害の範囲を地図化したものです。

# ハザードマップと地区防災カルテ



名古屋市では地区防災カルテを作成しています。  
地区防災カルテは、各ハザードマップの情報や地域の地形等、災害リスクを学区ごとにまとめたものです。  
地震編・風水害編は、可能であれば地区防災カルテと一緒にご覧ください。  
URL <https://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000110628.html>

# 地区防災カルテでの災害リスクの確認方法

## 洪水の例



### 手順①

確認したい場所の位置を確認する

### 手順②

ご自宅の位置に塗られている色を確認する

### 手順③

ご自宅に塗られている色と凡例を照らし合わせる

⇒例示の場所は、  
1.0m以上~3.0m未満の浸水

他の災害リスクも、確認方法は同様です。